

のむら復興まちづくり デザインワークショップの経緯

愛媛大学社会共創学部
松村 暢彦

のむら復興まちづくりの振り返り

乙亥大相撲の伝統、シルクとミルクのまち、野村の住民主体のまちづくり

2018/07 西日本豪雨災害

2019/03 「西予市復興まちづくり計画」の策定

第1期

2019/05 「のむら復興まちづくりデザインプロジェクト」発足
「のむら復興まちづくりデザインワークショップ」（計6回）

2019/10 「のむら復興まちづくり計画」の策定

第2期

2019/12 「のむら復興まちづくりデザインワークショップ」
アクション編「河川沿いの魅力ある空間整備」に向けて（計3回）

2020/07 「河川沿いの魅力ある空間整備」の基本設計

第3期

2020/10 「のむら復興まちづくりデザインワークショップ」
アクション編2「河川沿いの魅力ある空間活用」に向けて（計3回）

第4期

・
・

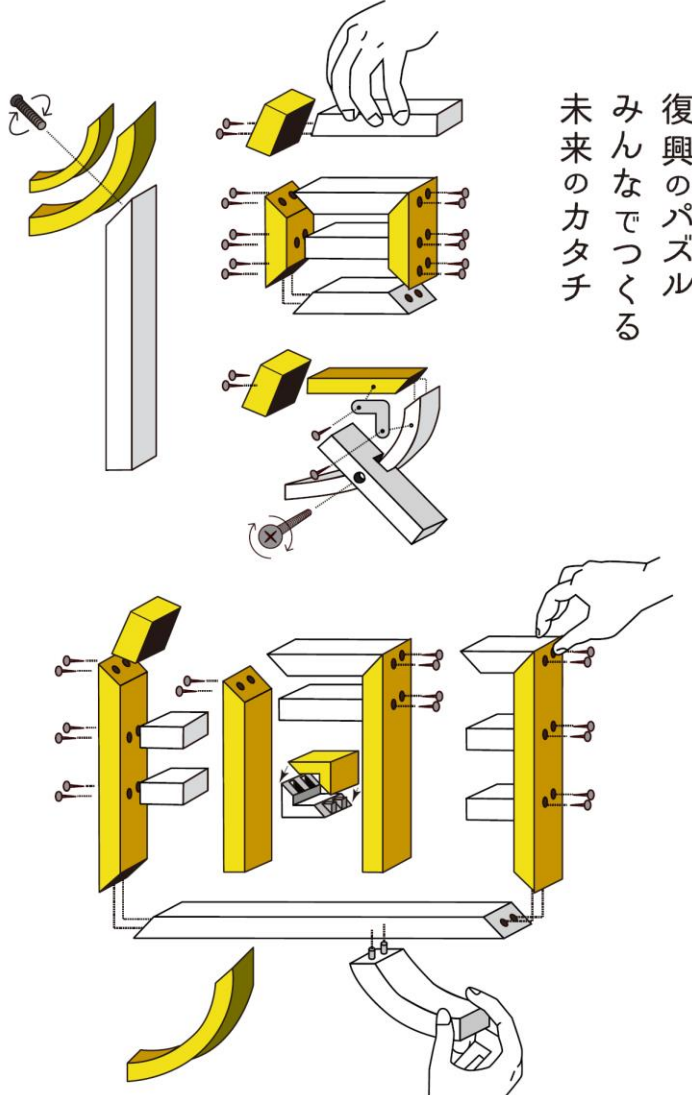
・
・

西予市復興まちづくり計画 復興座談会

日時	地域	参加者数
18/11/19	明間	約50名
18/11/26	岩木	約35名
18/12/07	宇和	約50名
18/12/17	明浜	42名
18/12/18	城川	49名
18/12/19	三瓶	32名
19/01/09	野村	60名
19/01/16	野村町野村以外	12名
19/02/12	三瓶	30名
19/02/13	宇和	54名
19/02/14	明浜	22名
19/02/19	野村	77名
19/02/20	城川	74名
		のべ約587名



西予市復興まちづくり計画



復興のパズル
みんなで作る
未来のカタチ

野村復興デザインプロジェクト

- 基本的な考え方
 - 新たな魅力あるまちづくりを進める
 - 話し合いを深めながら、市民の視点でまちづくりを描く
 - 災害に強いまちづくりを実現する
- 野村地区の将来像を描く
 - **市民、行政、大学の協働により、アイデアを出し合うためのワークショップを開催**

野村高校の生徒が想う復興まちづくり提案



暮らしとそれを実現するアイデアだし



3. のむら復興まちづくりのめざすべき姿

3.2 のむら復興まちづくりの体系

目標像

施策体系

(1) 肱川と共に生きる

1-1 肱川の河川改修

1-2 河川沿いの魅力ある空間整備

1-3 避難体制の強化

(2) 野村の住民だけでなく、
来訪者にとっても魅力的な商店街を創る

2-1 魅力ある店舗・商品の創出、PR強化

2-2 憩い・集い、周遊を促す空間整備

2-3 若者のチャレンジ等の支援

(3) 「相撲文化」や「飲む村、のむら」
等の野村の文化を守る

3-1 のむらブランドの復興、PR強化

3-2 のむらの文化を伝える仕組みの構築

3-3 のむらならではの魅力を活かし来訪者を呼び込む

(4) 地域で支え合い、市民一人ひとりが
活躍するまちを創る

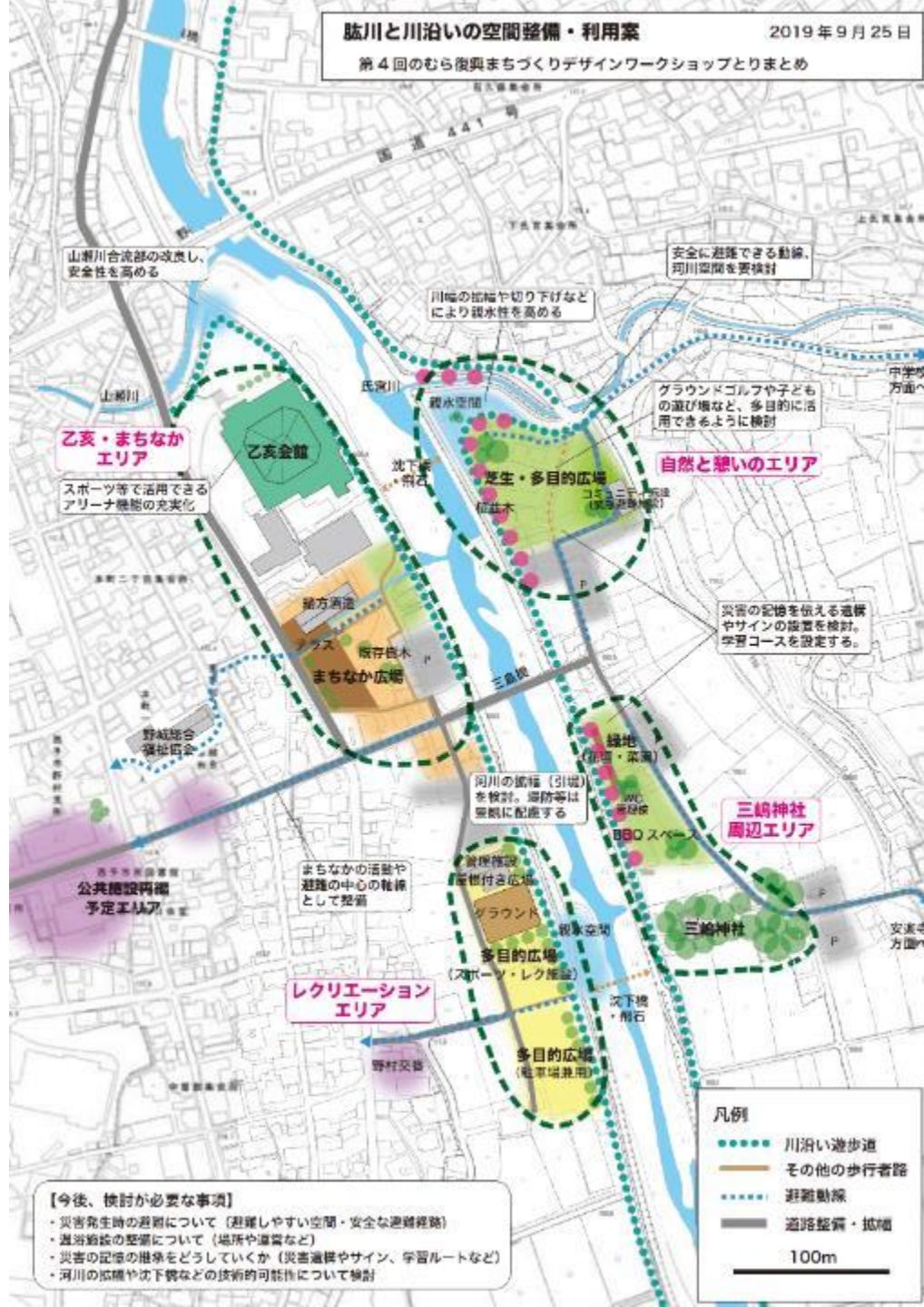
4-1 野村の生活、文化を守るための移動手段の確保

4-2 若者等の定住を促すための条件整備

脇川と川沿いの空間整備・利用案

2019年9月25日

第4回のむら復興まちづくりデザインワークショップとりまとめ



山瀬川合流部の改良し、安全性を高める

川幅の拡張や切り下げなどにより親水性を高める

安全に避難できる動線、河川空間を要検討

乙亥・まちなかエリア

スポーツ等で活用できるアリーナ機能の充実化

グラウンドゴルフや子どもの遊び場など、多目的に活用できるように検討

自然と憩いのエリア

災害の記憶を伝える道標やサインの設置を検討。学習コースを設定する。

三崎神社周辺エリア

レクリエーションエリア

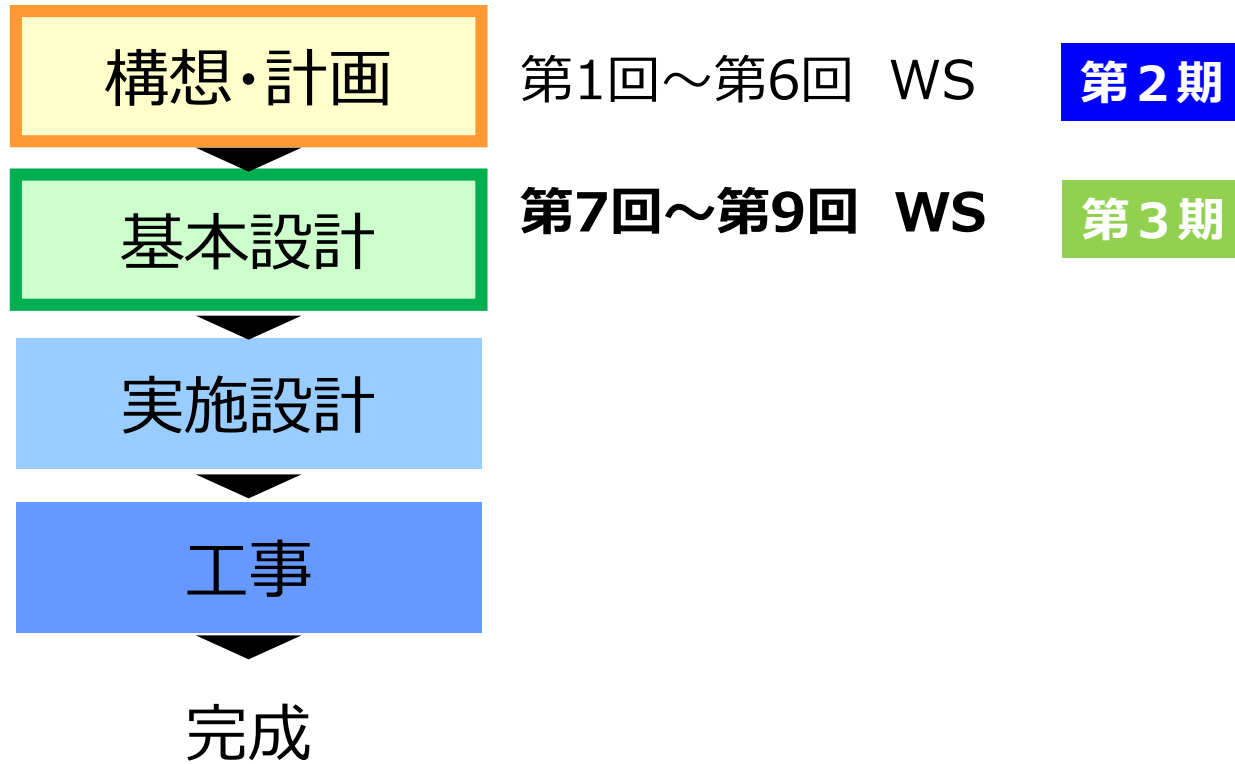
- 【今後、検討が必要な事項】
- ・災害発生時の避難について（避難しやすい空間・安全な避難経路）
 - ・遊歩動線の整備について（場所や道幅など）
 - ・災害の記憶の継承をどうしていくか（災害道標やサイン、学習ルートなど）
 - ・河川の拡張や沈下観などの技術的可能性について検討

凡例

- 川沿い遊歩道
- その他の歩行者路
- 避難動線
- 道路整備・拡張

100m

のむら復興まちづくりデザインワークショップ



空間・利活用の具体的なイメージを考える



自然・憩いエリア

整備方針（「のむら復興まちづくり計画（案）」より）

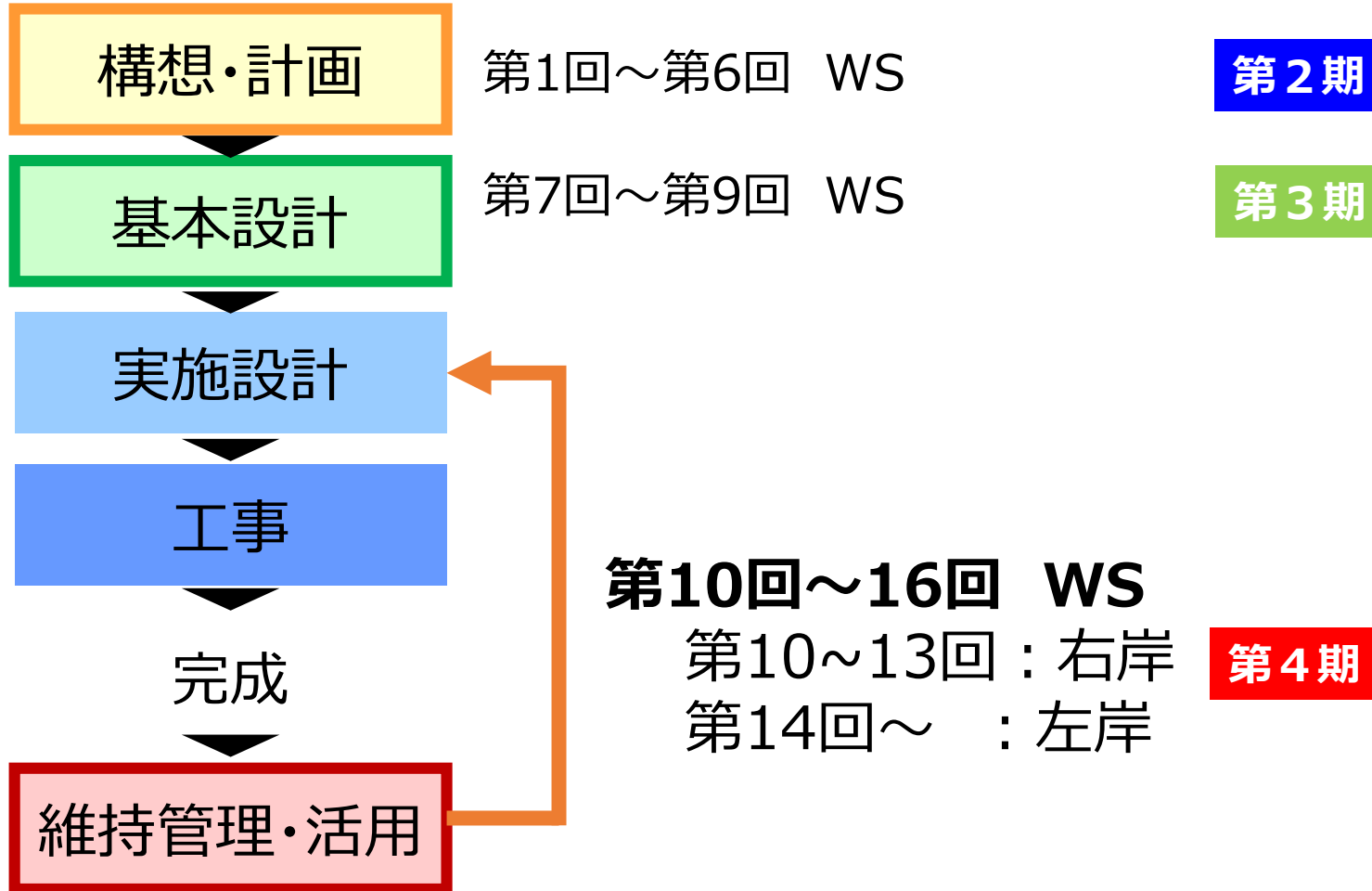
肱川と氏宮川の合流地点に親水空間の形成を図るとともに、多目的に活用できる空間の整備等をめざす。

■イメージ

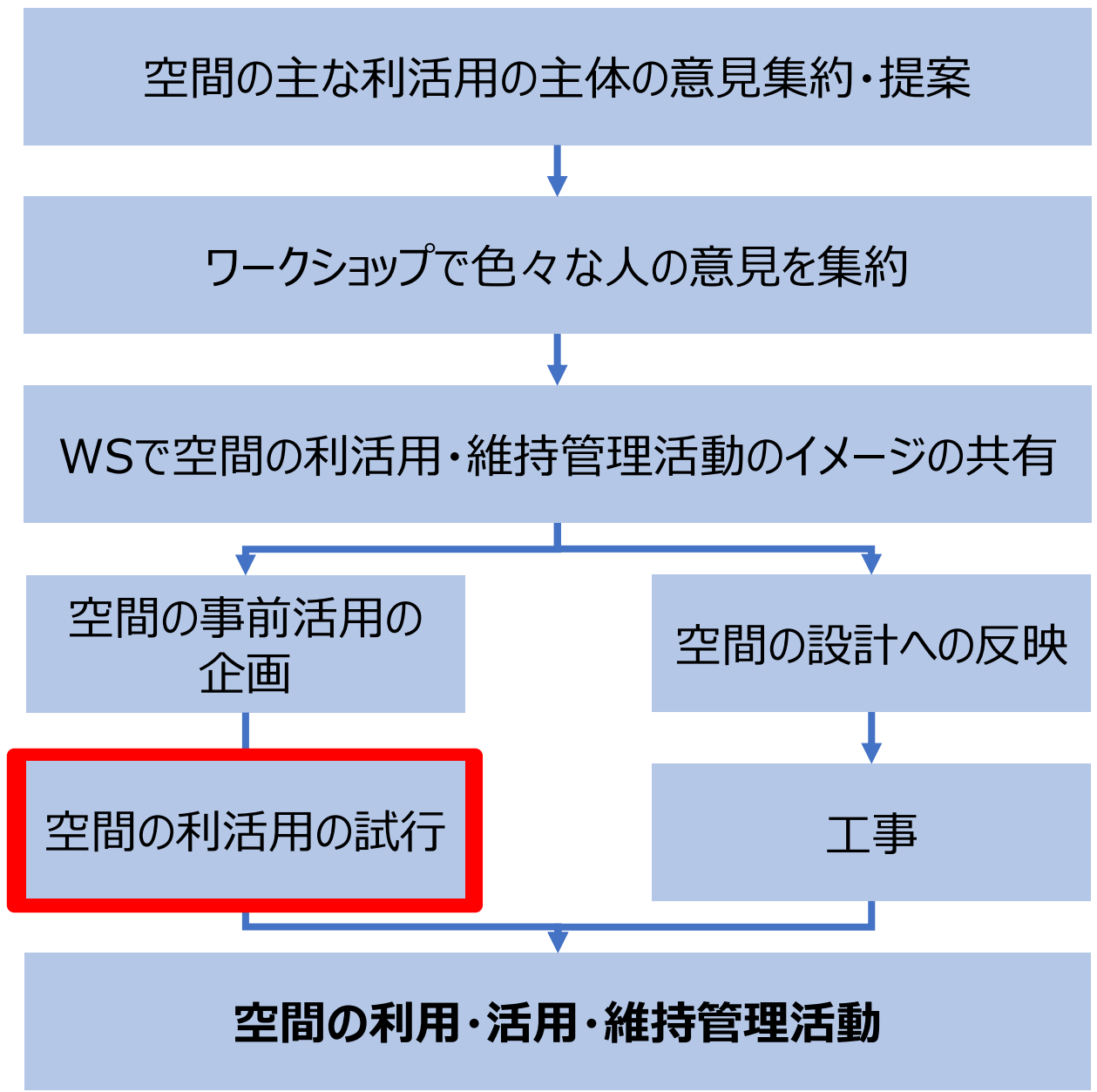


- 自動車動線
- 歩行者・自転車動線
- 駐車場
- 駐輪場・駐輪スペース

のむら復興まちづくりデザインワークショップ



公共空間の活用・維持管理の検討パターン



野村高校での検討



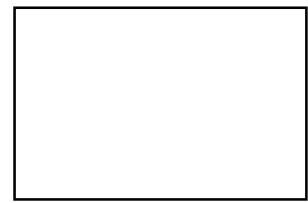
第10回WSでの検討
(20年10月)



第11回WSでの検討
(20年12月)



第12回WS
(21年3月)
第13回WS
(22年7月)



21年度～



23年度～

三嶋神社周辺エリア

整備方針（「のむら復興まちづくり計画（案）」より）

様々な住民ニーズに対応可能な空間の確保等をめざす。

※ワークショップにおいて、当エリアは三嶋神社の御神田に隣接するエリアであることや、周辺民家への配慮から、バーベキューのための空間・施設整備は行わない方針が決定した。



■イメージ



種まきの風景 (2021/5/23)



草刈りの風景 (2021/06/27)



サツマイモ収穫イベント (10/16)

第4期



ワイドえひめ

WIDE EHIME

被災地菜園 笑顔咲く

西予・野村高生復興に力



西日本豪雨の浸水跡地に設けた菜園で、野村高校の生徒が育てたサツマイモを収穫する子ども

肱川沿いの浸水跡地 園児らと芋掘り体験会

西日本豪雨で被災した西予市野村地域中心部を活気づけようと、地元の野村高校の生徒が肱川沿いの菜園化に力を注いでいる。5月から育ててきたサツマイモが収穫期を迎え、このほど地元園児らを招き芋掘り体験会を開いた。生徒たちは「地域との関わりを深められた」と活動の手応えを感じている。

菜園化の取り組みは、2019年から実施する地域のワークショップで生徒が提案した。豪雨で浸水した肱川沿いの土地を特産品開発や農業体験などができる拠点にする計画の一環で、2、3年生8人が今春から実験的に野菜や花の栽培に取り組んでいる。畑は東岸側の約2100平方メートル。5月にサ



西日本豪雨で浸水した肱川沿いの土地にコスモスの種をまく野村高校の生徒

ツマイモとヒマワリを植栽したのを手始めに、10月上旬にはヒマワリが咲き終わった跡地にコスモスの種をまいた。芋掘り体験会を開いた16日、地元の子どもや住民、ワークショップに参加する愛媛大生ら約50人を招待した。進行役を務めた野村高3年の上甲郁さん(18)は「笑顔があふれる時間になった」と充実感をにじませ「復興と活性化には地域の協力が不可欠。今後もイベント開催などで地域を盛り上げたい」と意欲をみせていた。

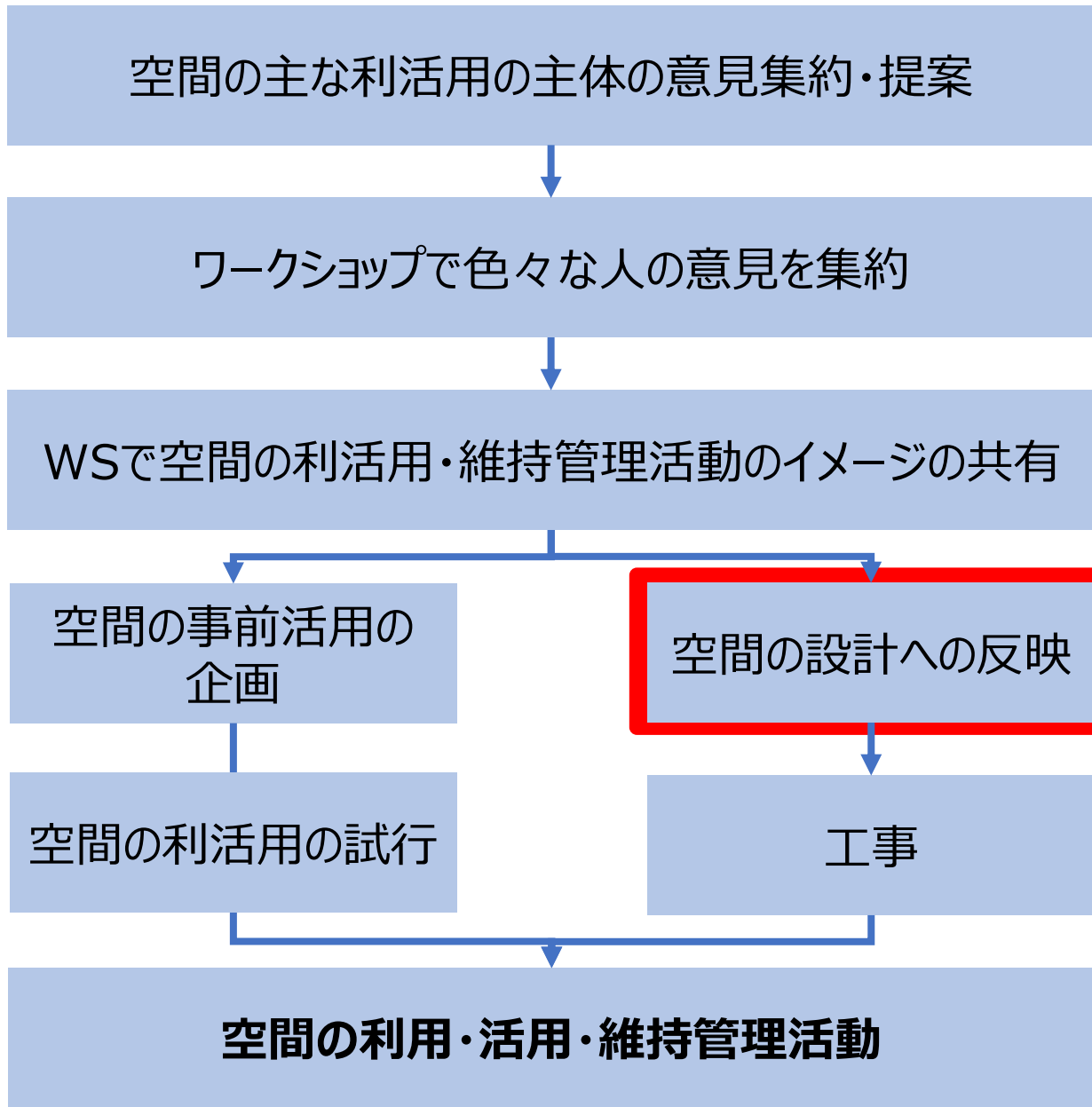
ツマイモを次々と掘り起こしては大喜び。野村保育所の入船湖雪ち

(山内拓郎)

乙亥大相撲でサツマイモ料理の提供（11/27）



公共空間の活用・維持管理の検討パターン



野村高校での検討



第10回WSでの検討
(20年10月)



第11回WSでの検討
(20年12月)



第12回WS
(21年3月)
第13回WS
(22年7月)



21年度

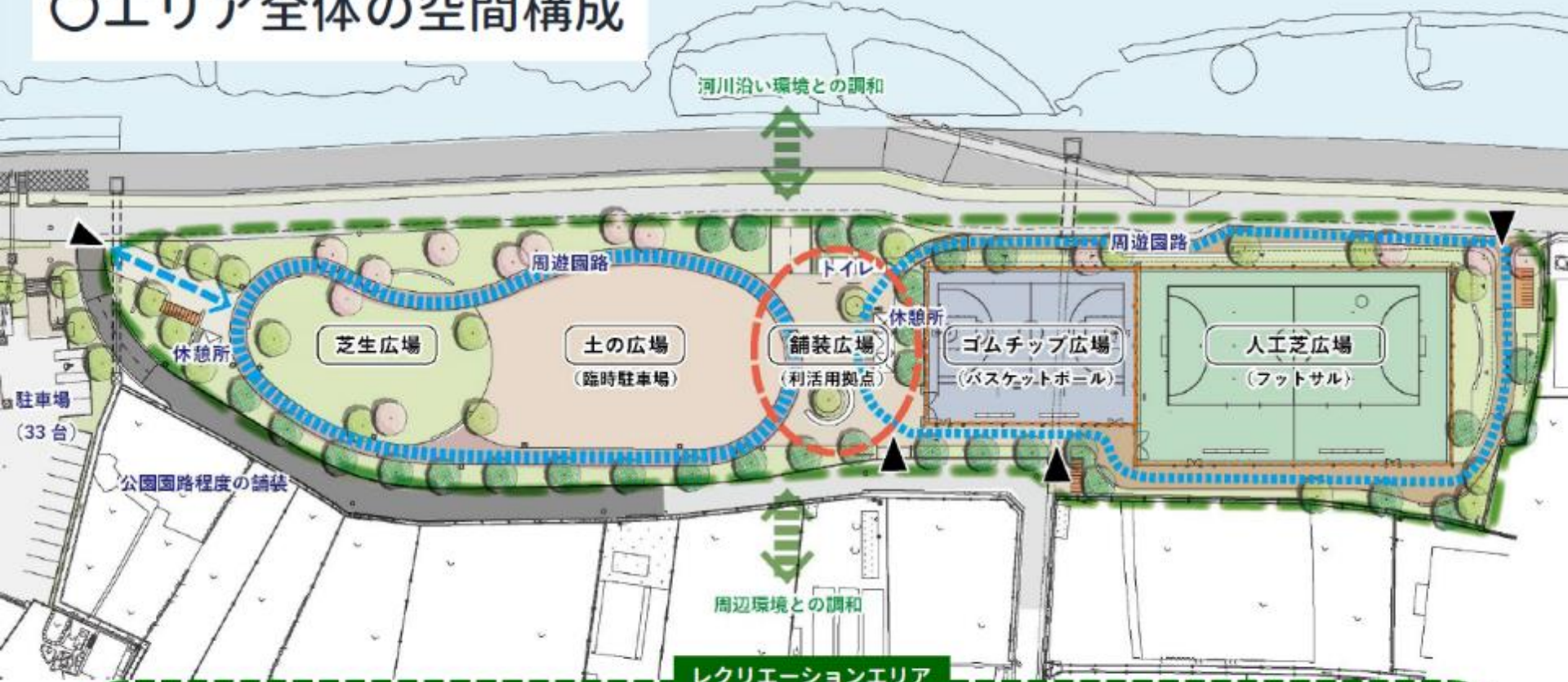


22年度～

右岸側実施設計の説明



○エリア全体の空間構成



レクリエーションエリア

レクリエーション広場ゾーン

- ・遠足
- ・昔遊びを子供に教える
- ・体育館で行えないスポーツ (竹馬など)
- ・青空下でヨガ
- ・楽器の練習、部活動
- ・小さな子どものボール遊び
- ・親子でバトミントン
- ・ゲートボール
- ・ミニ運動会
- ・外遊び、おにごっこ
- ・フリーマーケット、マルシェ、軽トラ市
- ・イベント (屋台・盆踊り・ライブ)
- ・野外シアター

拠点ゾーン

- ・休憩
- ・集合
- ・イベント本部

スポーツ広場ゾーン

- ・バスケットボール
- ・自由に3on3をして遊べる
- ・ポートボール
- ・テニスもできる
- ・フットサル (試合、交流会)
- ・仕事終わりや夜の利用
- ・少年サッカーの練習
- ・部活動
- ・園児の遠足や遊び
- ・保育園の運動会
- ・ドッジボール大会

- ・毎日のウォーキング (夜安全に歩ける)
- ・歩け歩け大会

ワークショップが機能している理由

- **災害前からの住民参画型の常態的まちづくりの蓄積**

→行動する住民（組織）の形成→復興の担い手

→実現したい野村での暮らし像→復興計画

- **重層的な地域での役割を持つ主体**

→市職員／消防団員／自治振会員／・・・

- **野村高校の参画**

→将来の担い手の具現化とまちづくり主体の多様化（今年度から野村中学校、野村小学校へと拡大）